

## 北海道福音伝道会・北海道聖書学院

## HBI 学院通信

立場 聖書信仰・福音主義・超教派 実践 信仰・従順・聖潔

モットー「キリストを知り、教会に、世界に、時代に仕える」

〒003-0831 札幌市白石区北郷1条3丁目1-61

電話番号 011-871-7892 FAX番号 011-871-7899

・郵便振替口座 02720-9-19238

加入者名「北海道福音伝道会・北海道聖書学院」

・ゆうちょ銀行総合口座 記号19090

番号103151 加入者名「北海道聖書学院」



たゆみなく祈り、  
語るべきことを語りなさい  
コロサイ書4章2～6節

学院長 松 元 潤

人生の折々に、原点回帰となる儀式があります。直接献身に導かれた者にとって、神学校の卒業式は自らを原点回帰させる一つでしょう。毎年、私もまた40年近くも前の自分自身の神学校生活を思い出します。神学校での学びは私にとって睡眠時間を削れるだけ削る自分の限界との戦いでしたが、それ以上に大きな恵みでした。聖書の原語に触れる毎日の中で、神である主が本当に語ろうとしていることに耳を傾けるという信仰の根幹を教わったからです。私にとって神学校で四六時中聖書を学ぶことができるのは想像以上に豊かな時間であり、神のことばによって自分自身の考え方や混沌とした価値観を矯正されていく時間でした。みことばの原意に触れると、単なる知識の獲得で終わることはできません。神の語りかけですから、知識だけで完結するはずありません。学んだことをメッセージとして講壇に立つために、結局真っ先に自分の罪が主の前に問われ続けました。そして、私が受け取った神のことばの真意を、一人でも多くの教会員が心の深みにおいて受け取りその人自身の信仰を形成していくようにと祈られました。そういう意味では、教会における説教の講壇は、毎週私にとって真剣勝負の場所だったと思いますし、今でもそうです。

今回は、神学校で学んだことが、生涯それぞれの働きの中で生き続け、各人の賜物に応じてふさわしく実を結んでいくようにと願って、私たちが一生涯なすべき同じ務めである、祈りとみことばを語ることにについてお話しさせていただきたいと思います。

## I. 第一に、たゆみなく、祈れ、ということです。

C.H.ス波尔ジョンが書いた『牧会入門』という本の一節に「祈りは、未熟な教役者を型に入れて仕上げるために、偉大な陶器師であるお方が用いる道具である」ということばがあります。卒業後徐々に多くの奉仕を担うようになると、案外、祈りは後回しになります。祈りから出発するはずの奉仕の霊的な順序が入れ替わり、問題が発生したら祈る、ということも起こりかねません。私たちの働きを主のわざだと思ふなら、主をお願いして始めなければならないのです。私はこのことを牧会現場で出会った「自己宣伝より祈りを先にする」OMFの宣教師たちの姿勢から学びました。

この手紙の初めと終わりを見ると、パウロの祈りと、手紙の受取人であるコロサイの教会の人々が祈るようにという勧めで閉じられています。祈りと祈りの間に、この手紙の内容があるのです。最初の1章9節で「**私たちも・・・絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたが、あらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころについての知識に満たされますように**」とパウロ自身の祈りをことばにしています。そして、この手紙を閉じるにあたり、再び4章2節で「**たゆみなく祈りなさい**」と命じて、この手紙を閉じようとしているのです。お互いの祈りと祈りに挟まれて、パウロは教会が守られることを願ってこの手紙を記していることから、教会に仕える働きにおいて、祈ることは最優先であると、教えられます。

パウロは、教会の主とはキリストであるという意味を論じ、そこにつながる兄弟姉妹の関係、そしてあらゆる地上の人間関係についてアドバイスした上で、コロサイの教会に対し「**たゆみなく祈りなさい**」と命じました。祈りに専念せよ、粘り強く祈り続けよ、という意味が含まれています。

現実には祈ることを諦めやすい問題が多くあるからです。たゆみなく祈りなさい、という命令は夫と妻、親と子、雇い主と雇われている者という現実社会の様々な関係においてキリストの福音に基づく生活を送るようにと勧めてきた直後に来ます。世にあって具体的に神のみこころを選び取る生活には「霊的な識別力」が必要なので、私たちはぼんやりしてはならないのです。だからパウロは、「目を覚ましていなさい」とも言い換えて、みことばに基づく内容のある祈りを命じたのでした。ぼんやりとではなく、真剣にたゆみなく祈りを絶やすことなく教会に仕えなければなりません。

## Ⅱ 第二に、私たちは語るべきことを語る者でなければならないということです。

3節で「同時に、私たちのためにも祈ってください」とパウロは要請しています。「神がみことばのために門を開いてくださって、私たちがキリストの奥義を語れるように」という祈りを求めたのでした。選民ユダヤ人専有のものではなく、異邦人も含めたすべての人のための福音を伝えることになった時、内からも外からも激しい戦いが生じました。だからこの祈りを願う目的を4節で「**私**がこの奥義を、語るべき語り方で明らかに示すことができるように祈ってください」と語っています。方法論や語る技術のことではありません。パウロはこれまで真理のことばであるみことばを人格化して語ってきていますので、みことばにはみことばが本来意図している言いたいことがあるという前提に立っています。だから、みことばそのものが持つ真意をまっすぐに明らかにできるようにと強く願っているのです。

その上で、「外部の人たちに対しては、機会を十分に生かし、知恵をもって行動しなさい」と語っています。この外部の人たちとは、教会の外の未信者の人たちのことであり、「機会を十分に生かし」とは、『時を買い占めよ』という意味です。寸暇を惜しんで福音を伝え証しするために、6節で「**あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味の効いたものであるようにしなさい**」と勧めているのです。このことばは、みことばではありません。私たちの日常の人間関係の中で使われていることばが、私たちが信仰を常に働かせていれば、「親切で塩味の効いたもの」となるはずだとパウロは考えているのです。

ロイド・ジョンズも山上の説教の「**あなたがたは地の塩です**」ということばを取り上げて、キリスト者は個人としても生活領域の中で、地の塩としての機能を果たすべきだ、と、罪による腐敗を食い止める役割を意識して語っています。今日、世界を恐怖と不安に陥れる災害や戦争や病の問題があります。しかし、どんなに大きく見える問題にも、魂を滅ぼす根源的な破壊力はありません。私たちが滅びに向かわせる罪からの救いこそ、私たちがキリストの十字架のことばによって語り続けなければならないものです。

たゆみなく祈り、常に祈られていることも忘れず、語るべきことを語るために、主に守られますように。

## 本科卒業生 短期信徒コース卒業生



左から 短期信徒卒業生 印鑰杏理  
本科卒業生 三戸恵悟、國安洋子、  
工藤元貴、石黒 大

## 卒業生の証し

Hokkaido Bible Institute

奉仕先

労苦は主にあつて無駄ではない  
日本同盟基督教団もみじ台オアシス教会 伝道師  
第54期卒業生 石黒 大

私は、2022年3月にHBIを卒業し、もみじ台オアシス教会に遣わされました。当教会は高齢者向

けシェアハウスが併設されています。現在、9名の高齢者（全員クリスチャン）が入居しています。主日礼拝は入居者以外の方も集まり、毎回30名前後の出席人数です。

シェアハウスでは入居者に1日3度の食事を提供しています。キッチンワーカーがいるのですがお休みや不在の時もありますので、教会スタッフや教職者も食事当番や後片付けをします。私も、礼拝や説教奉仕より先に、食事当番や食器洗いをすることになりました。が、全く問題はありません。HBIで食事当番や食器洗いを3年間やりましたので！

当教会には庭や畑もあります。これから野菜を育てたり、雑草を草刈り機で刈ったりすることになるでしょう。が、問題ないでしょう。HBIで畑仕事をしましたし、草刈り機も使いましたので！

この前の冬は大雪が降り、雪かきが大変だったそうです。おそらく今度の冬も雪かきをすることになるでしょう。が、問題ないでしょう。HBIで雪かきをしましたし、除雪機も使いましたので！

このように、HBIで様々な作業をしたことがたいへん役に立っています。第1コリント15章58節のみことばの通りです。労苦は主にあって無駄ではありません！ ハレルヤ！

献身を考えておられる諸兄には、実践・実務に強いHBIをお勧めします！

奉仕先

### いつも主を前に置く

日本ナザレン教団札幌教会会員  
ナザレン神学校神学生

第54期卒業生 國安 洋子

HBIを卒業してから2か月が過ぎました。

4月に日本ナザレン神学校に入学し、引き続き「主を知る喜び」の中に生かされています。

いつも時間に追われ、常に「前へ、前へ」と意識を向けていたHBIでの生活に比べ、今は、ZOOMによる授業中心で学生会や作業に参加することもなく、朝も早天祈祷会がありませんので、授業が始まる5分前にパソコンの前に座ればよい、といったまるで「夢のような」生活です。

このようなギャップの中で思うことは、やはり諸先生や学友たち、吉田舎監や事務の原田さんやキッチンワーカーの藤根さんなどの存在の有難さ

です。皆さんとの言葉によるコミュニケーションだけでなく、非言語的なコミュニケーション（表情や態度）を通していかに多くのものを受け取っていたか、そしてそれに自分が反応する時にいかに多くのことを学んでいたかということです。

もう一つは、学びの他に課せられていたことの一つひとつが、私の3年間の学びを支えていたということです。例えば、早天祈祷会のお勧めやゲストルームの準備、学生会の行事など、これに当てる時間と体力を課題や読書に回したいと感じていた事柄が、実は生活のメリハリを作り出し、発想の転換や気持ちの切り替えを与えてくれ、学びを継続する力となっていたことです。後輩の皆さんには、持っている時間や体力は個人差があっても、そうした事柄にも精一杯向かうことをお勧めします。

今は、HBIでの「他律的」な生活から「自律的」な生活が求められていますが、大切なことは、「いつも主を前に置く」ことであることを心に据えながら、毎日を過ごしていきたいと願っています。

奉仕先

### 祈りとみことばによって

JECA札幌ライトハウスキリスト教会伝道師

第54期卒業生 工藤 元貴

主が定めた訓練を終えることができ、主と皆様のお支えに心より感謝いたします。弱い体が守られるようにとの日々でした。入学式そうそう体調を崩し、初めは緊張から頭痛ばかりで、キャンプ奉仕はギックリ腰。無理をして喘息が悪化する中でコロナ禍、しかし守られて学びは中断しませんでした。次第に自分の分を受け入れました。しかし、もっとできると高ぶり、一方で自分を守りすぎて成すべきことをせず、ふりこのような罪の中に葛藤しました。私の召しはヨハネ21章です。在学中気付かされたことは、失敗したペテロも私も、主を愛し従いたかったが、弱さのゆえに従いきれないということです。それは献身者だから変わるということはありませんでした。弱さゆえに出来ないのです。それゆえ、させてくださいと祈るしかありませんでした。ペテロも後にこう告白します。Ⅱペテロ1:3「…主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔をもたらすすべてのものを、私たちに与えました。」

主がすべてのことを全うさせて下さいます。そ

して、先の歩みがより確かなものになるよう語ります。Ⅰペテロ1:19「また私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。…暗い所を照らすともしびとして、それに目を留めるとよいのです。…」

この弱い者が世に遣わされて行きますが、主はみことばを与えて下さいました。そして学院において、命をかけて語り、みことばに生きる教師の姿を見ました。一日一日、ただ主がなさしてくださいようと祈り、みことばに立ち、一足ずつ伝道牧会に励んで行くことを願っています。

奉仕先

### 主の恵みに支えられて

JECA栄福音キリスト教会伝道師

第54期卒業生 三戸 恵 悟

「あなたの道を主に委ねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。」(詩篇37:5)

このみことばを握りしめて、3年前、神学校に入学しました。主が、このみことばのとおり、全てを成し遂げてくださったこと。一切の必要を満たし、今日まで導いて来てくださったことを覚えて、主の御名を褒め称えます。

3年間を振り返り、まっさきに思ったことは、「本当に感謝な3年間だった」ということです。主が、その時々、私にとって必要な訓練と励ましを与えてくださり、温かな御手をもって導いて来てくださったことを確認させられ、感謝の思いが溢れました。

本当に感謝なことが沢山思い出される中で、特に印象深く思い出されたのは、1年生の秋頃の出来事です。当時、自分のあまりの罪深さに圧倒されていた私に、主は、「義とされていることの恵み」の大きさを豊かに教えてくださいました。自分の人生において、ただキリストこそが土台であり、全てであると思わされた時でした。

あの秋の出来事以来、キリストを仰ぎ見、キリストの愛に押し出されて、キリストの救いの御業を告げ知らせいきたいと願わされています。主が遣わして下さるところで、主の栄光を豊かに現わしていけるようお祈りいただけると幸いです。

## 短期信徒コース修了生の証し

Hokkaido Bible Institute

奉仕先

### 短期信徒コースの学びを終えて

JECA札幌南福音キリスト教会会員

短期信徒コース修了生 印 鑰 杏 理

短期信徒コースの学びを無事に終えることができたことに感謝します。学院での学びはどれも私の信仰の成長に必要なことばかりでした。

最初に得た大切な学びは、「私は神様のことや聖書で示されていることをまだまだ知らない」ということでした。分かったつもりでいた自分を知り、主の前に謙虚になって一から学ぶ姿勢を得ました。それから、自分の今まで考えていたことや価値観、具体的には歴史観、世界観、人間観、教会観、神観などの多くのことをもう一度聖書の御言葉に照らし合わせて考えることが出来ました。特に私は歴史が苦手で、今まで歴史観や国際問題・社会問題などに考えを持つことは出来ていませんでしたが、学んでいくうちに歴史や過去から現在の問題に対して聖書的視点で考え始めるようになりました。更に、もっと身近な教会生活や信仰の問題、倫理的な問題などの自分の立ち位置や信仰についてもう一度考えることが出来ました。それは大変なチャレンジでしたが、信仰が成長するために大切なことでした。

また、学ぶ中で多くの困難があり、涙する時もありました。しかし、いつも同級生に励まされ、尊敬する先生達に多くのことを教えていただきました。何より学びを通して主の愛がもっと深く分かり、何度も涙が最高の喜びに変わりました。

本当にHBIには素晴らしい交わりと主の祝福に溢れており、幸せで感謝な時間を過ごすことが出来ました。皆様の祈りに支えられて多くの学びがあったこと感謝します。

## 新入生の証し

Hokkaido Bible Institute



### イエス様に従う歩みを学ぶ

JECA札幌南福音キリスト教会会員

本科1年生 印 鑰 真人

私はクリスチャンホームに育ち、2010年に洗礼を受けました。大学生になると自分の人生で何をすべきか悩むようになりました。半分投げやりで「神様がやれと言うことをするので、すべきことを示してください」と祈ったこともありました。

転機は2018年にマルコの福音書8章34節「だれでもわたしに従って来なければ、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい」と共に、東日本大地震の復興支援を担う、社団法人「いっぽいっぽ岩手」の現地スタッフとして1年間働く機会が与えられたことでした。共に働くメンバーの姿を見て、「自分はどこまでできるか、何をすべきか」を改めて問われました。その後、「牧師や宣教師を支えたい」という思いを与えられましたが道は開かれず、児童福祉の分野に就職しました。意義のある仕事でしたが、気付けば結婚生活はバランスを失い、仕事もうまくいかず、信仰も首の皮一枚で繋がっている状態でした。私はイエス様に従いきれず、自分に対する失望やイエス様に対する恥ずかしさでいっぱいでした。しかし、そんな時、ペテロの信仰がなくならぬようイエス様が祈っていた場面が思い出されました。それでもなお、ペテロと同じように私のことも用いようとされるイエス様に、私は「用いてください」という思いが与えられ、「献身」という形で応答することを決めました。

これから5人の同期、先輩方と共に学びと訓練を通して、一歩ずつ、イエス様に従う歩みを学んでいきたいです。



### 主に導かれて

JECAぶどうの樹キリスト教会会員

本科1年生 鴻 海 大 輔

私はクリスチャンホームに生まれましたが「この世に神はいない」と、神様に背を向けて生きてきました。しかし2014年の冬、幼馴染クリスチャンの証しがきっかけとなり信仰が与えられ、2016年に信仰を告白し東京のぶどうの樹キリスト教会の教会員となりました。

信仰を持ってからずっと、どのようなカタチであれいつか主に献身的な働きをしたいと願っていて、2019年頃から東京のある神学校への入会を検討し準備を進めてきました。

しかし今年一月、志望の神学校の入会資格を満たさないことが分かり落胆する中、そちらの校長先生より幾つか提案をいただき、その中でHBIのことを知りました。今まで北海道の地に行くことなど全く考えてきませんでしたが、祈り求める中で「主の導きがここにある」と示され入会を決めました。結婚を約束していた妻も何とか理解を示してくれて、今年3月東京で結婚式を行い、二人で北海道の地に降り立ちました。

知らない土地で不安な点が多くありましたが、主が一つ一つ整えてくださり、現在落ち着いて生活と学びが来ていることを心から主に感謝しています。すべて新しい環境の中ですが、神様の導きに間違いはないので、与えられている学院の仲間たち、そして教師陣の方々に感謝と信頼を持って3年間歩んで参りたいと思っています。

## 短期信徒コース生の証し

Hokkaido Bible Institute



### むしろ大いに喜んで 自分の弱さを誇りましょう

JECA友好東栄福音キリスト教会会員

短期信徒コース生

齋 藤 詩 音

私たちの主の御名を心より賛美いたします。

クリスチャンホームに生まれた私は、神の家族に守られ、たくさんの愛情を注がれ育てられました。大学生活でKGGKと出会い、仲間と祈り励まし合っていく中で、主との関係が豊かにされていきましたが、主に歩み寄るうちに自分の中の罪が照らされ、自責の念が募る苦しい体験を通られました。そんなある日、全国集会で語られた

メッセージを通して、それは神様の赦しと愛の大きさを知らずの大切な成長の歩みなのだと思われ、励ましを受けました（ローマ5:20）。自分の弱さや欠けは主のご栄光をあらわすために与えられているもので、生涯を通して主に仕え、この器を用いていただきたいという願いが深まっていったのです（コリント第二12:9～10）。

大学卒業後は祈りと導きの中で高齢者福祉の現場へ出ていきました。重度の認知症を抱える入居者の皆様と関わる中で自分の愛のなさ、簡単に人を憎む心の醜さに目を向けさせられ、同時にそれでも私を赦し、目的をもって遣わしてくださっている主の愛に触れる日々を送りました。

働く中で、御言葉を宣べ伝え、生き様を通して主を証していくためには体系的な知識を土台とした信仰の根拠を培う必要があると感じるようになり、短期信徒コースでの学びを祈り求めるようになりました。

これからの学びと訓練を通して、ますます主がこの小さな者を養い成長させてくださる恵みに心から期待しています。



### 光に頼りて

日本同盟基督教団小海キリスト教会会員

短期信徒コース生

佐藤 隆之

受洗から10余年、私の信仰は大きな進展もなく、本当に生ぬるいものでした。それでも確かな恵みも感じ、感謝な日々を過ごしていましたが、自分を全て捧げることからは逃げ続けていました。

昨年5月に長年闘病しておりました妻が天に召されました。その日から生活は一変しました。今まで自分が大事にしていたもの、好きだったいろいろなモノやことが全て色褪せ、枯れ果ててしまっていく様に感じました。ただ一つ信仰だけが残りました。このことは本当に意外な事実です。私は全てを捧げていない中途半端な信仰を自覚していたので信仰の友でもあった妻がいなくなるといづれ教会を離れ、信仰も捨ててしまうのではないかと心のどこかで思っていたのです。実際にはまったく逆なことが起こりました。聖書を読むとき、祈りを捧げる時、それだけが心に平安を与えてくれました。いつしか私の残りの人生を神様のために使っていただける様にと祈るようになっていきました。しかし、それからしばらくは暗闇に

光を探している様な神様からの応答を待つ時を通らされました。その後、神学校への思いが与えられましたが、様々な思いとの葛藤があり特に今までの生活を捨てること自分の全てを委ね、捧げることへの抵抗は大きなものがありました。苦悩の時を過ごしましたが、今希望の光に照らされHBIでの学びと訓練の道を与えていただいた主に感謝する日々を歩ませていただいております。



### 自ら進んで

国際福音宣教会宣教師

短期信徒コース生

ジェント真裕子

約10年前に北海道へ一人旅に来たことがありました。その際松元院長ご夫妻に出会い、将来フルタイムで献身することを祈っていると話すと、HBIを見学することを提案して下さい、すぐ翌日に案内して頂きました。いつかは聖書をもっと深く学びたいと思っていたので、実際に学校を見せて頂きその思いは膨らんだ反面、今がその時であるのかわからず、しばらくの間悩みましたが踏み切りが付きませんでした。それから8年の時を経て宣教師である夫と出会い結婚へ導かれました。OMF宣教師として送り出されるにあたりHBIでの学びを勧められた時には、神様の導きを振り返るととても自然なことと感じました。大学生のころ韓国人宣教師から将来フルタイムで宣教に仕えることのチャレンジを受け、主の御心なら私に直接語って下さいと祈り、与えられた御言葉が第一歴代誌29章5節でした。その後10年以上具体的な導きを祈りながらこの御言葉の「自ら進んで」という言葉の意味をずっと考えていました。そんな私に神様は、私の罪深さとキリストの恵みによる救いの大きさをある牧師を通して改めて示して下さいました。主に仕える原動力のあるべきところがイエス様の十字架で罪から救われた喜び、約束された永遠のいのちにあるということがハッキリと示され、責任感や使命といった言葉で突き進もうとしていた私に、こんなにも愛し赦して下さいたイエス様をぜひ伝えたいという思いが新たにされ、「自ら進んで」と語られた意味が少しわかるように思いました。HBIでの学びを通して、御言葉からキリストの豊かさをもっと知り、知らせる者になりたいと願っています。



## By faith, not by sight

単立金沢独立キリスト教会会員

短期信徒コース生

ソン・ジェスク

宋 栽 淑

2008年 3 月、日本で 3 年間の宣教奉仕を終えて帰国するとき、私は船の中で神様に、「主よ、もし私が日本にまた来るようになるのなら、その時私は家族と一緒にでなければできません」と祈りました。

2020年 3 月、日本の金沢独立キリスト教会に信徒宣教師として来る道が開かれ、私は夫と共に 5 歳になった娘を連れて日本に着きました。私たちは、そこで 2 年間教会と教育園で奉仕をし、今年 3 月、北海道にある HBI に導かれました。

なぜ日本に来るようになったのか。あえて日本でなければという理由があるのか。これに関して、いまだによく分かりません。ただ、一つ言えることは、神様が私たちを日本に送られたという確信です。神様が願われたので私たちが存在するようになり、その神様の召しに応じたいと言いましょ。

神様がアブラムに、「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、私が示す地へ行きなさい」と言われ、当時（今日も同一だと思う）人々のアイデンティティーを造り出す 3 つの大事な関係一因、親戚、父の家にサヨナラを告げ、旅に出ました。

これを学んで、私たちも実際どこに行けばいいのかわかりませんでしたが、日本に来る道が開かれ、私たち家族はそれに応じました。そして、ここに着いたけれども、またどこに行けばいいのかわかりません。ただ、全能の神様は知っておられ、私たちを導かれるという信仰を持っているだけです。私たちは今、ここ HBI に来ていて、最善を尽くして学ぼうとしています。キリストを知り、教会に、時代に仕えるために。

## 学院 ニュース

NEWS

### 責任役員会並びに評議員会報告 (敬称略)

2022年度（2022年 5 月現在）の責任役員は中川

昭一（代表役員）、ジョンニュートン・ウェブ、田鎖直樹、本牧人、木村 太、川崎憲久、藤山勝彦、松元潤の 8 名です。評議員は小菅 剛（議長）、三浦育子、クオック・エドウィン、菜花和男、杉本博徳、村田晃、本多民生の 7 名です。

#### <2021年 5 月18日開催：責任役員会のみ>

2020年度会計決算及び財産目録、監査報告。教育棟増改築返済金の一部繰上げ返済。松元潤学院長の任期更新（2024年 3 月末定年）。学院行事に伴う傷害保険を掛ける。「学院授業（一部）のオンラインデマンド化」の検討を始める。

#### <2021年10月19日開催：責任役員会&評議員会>

海外研修旅行及び夏期伝道実習はコロナ感染拡大のため中止。10/20～22日：秋の特別公開講座（講師：清水武夫師）、12/7, 8日：教師講師研修会（講師：テモテ・コール師）、秋の夜間聖書講座（講師：吉田麻希子師）。「後任人事の候補者選考委員会」発足。2022年度学院行事計画承認。

#### <2022年 2 月22日開催：責任役員会&評議員会>

2021年度卒業修了生及び2022年度入学者希望状況。責任役員の任期に伴う交代。後任責任役員として木村 太師を承認。責任役員の任期は2026年 3 月末まで。会計監査 2 名（須川清一兄、大野戴子姉）を選任（任期：2024年 3 月末）。2022年度予算案承認。

#### <2022年 5 月17日開催：責任役員会&評議員会>

2021年度会計決算及び財産目録、監査報告。教育棟増改築返済状況（残200万円）。学院授業のオンラインデマンド化の中間報告と課題。ヴィドマー宣教師夫妻が2022年 7 月末に帰国（OMF退職）。吉田麻希子舎監が2023年 3 月末に辞任（三期 9 年）。「後任人事の候補者選考委員会」中間報告。教師研修費増額の件。

### 特記事項

- ① 退任：高橋政宣、ヴィドマー・はるひ  
(責任役員)
- ② 新任：ジョンニュートン・ウェブ、木村 太  
(責任役員)